



1 立体デザインはパソコンで作製し、3Dプリンターで形状の確認・調整などが行われる 2 花育では子どもたちが自由な発想で生け、花に親しむ土壌づくりを進めている 3 会社の展望などを語る小西英夫社長 4 5 色合いや形状など新しい感覚が採り入れられている同社企画の花瓶

造 17 創
かわちながの
ものづくり探訪
Made in Kawachinagano

花器の企画開発販売で
シェアトップを誇る
株式会社クレイ

市役所から目と鼻の先にある株式会社クレイは花器の企画開発販売を手がけて、今年で創業39年目を迎えます。代表取締役社長の小西英夫さんの父親、小西護さん(現取締役会長)が西洋陶器の製造会社を退職後、そのデザイナー経験を生かして設立したのが同社の始まり。自社で工場を持たず、デザインを企画して海外の企業に生産を委託する同社は素材もガラスや陶器などから、鉄や真鍮など様々なものに広がり、モダンなものからシャビーな(古めかしい)ものまで顧客が求めるサイズ、デザインに

対応しています。現在は98〜99%を海外で生産し、コストの抑制と取扱素材のバリエーションの幅を持たせることに成功、花を扱うプロが使用する花器などでは国内シェアトップとのこと。強みはそのデザイン力と低価格のほかに、納期内の納入徹底も。それは同社が発注先に製造を任せきりにせず、取引担当者が工場に入って改善を求めたり、進捗状況を把握するなど、製造現場と密に関わることで品質向上と迅速な納入を可能にしている。と小西社長は胸を張ります。



株式会社クレイ

会社名のクレイは「一握りの土」を英語で表したものの。同社はデザイン性の高いオリジナル商品を自社で企画開発販売するほか、子どもの花育活動にも取り組む。原町一丁目3-7 ☎ 53-1965
http://www.clay.co.jp

一方、同社は幼稚園・小学校で「二花一葉」という生け花の手法を使った花育活動にも力を入れていきます。これは一輪の花と二枚の葉を使って子どもたちが自由に創作するもので、小さい頃から花のある生活に親しんでもらおうというもの。同社はこのプログラムのために割れにくく、持ちやすい花瓶を企

画開発しています。今後は従来の製品以外の分野にも挑戦したいという小西社長。「陶器など従来の製品は、すでに高いシェアを占めて伸び代がない。今までの良さを生かして新しい分野の需要を創出した」と語ります。それは「ものを売る」よりも「価値を売る、作りだす」ことだといいます。例えば、ネットへの出品や配送の代理など、従来の企業活動から派生した仕事に発展の可能性を見いだし、変化する時代に対応した会社経営を目指します。

対して、現在は98〜99%を海外で生産し、コストの抑制と取扱素材のバリエーションの幅を持たせることに成功、花を扱うプロが使用する花器などでは国内シェアトップとのこと。強みはそのデザイン力と低価格のほかに、納期内の納入徹底も。それは同社が発注先に製造を任せきりにせず、取引担当者が工場に入って改善を求めたり、進捗状況を把握するなど、製造現場と密に関わることで品質向上と迅速な納入を可能にしている。と小西社長は胸を張ります。

今後は従来の製品以外の分野にも挑戦したいという小西社長。「陶器など従来の製品は、すでに高いシェアを占めて伸び代がない。今までの良さを生かして新しい分野の需要を創出した」と語ります。それは「ものを売る」よりも「価値を売る、作りだす」ことだといいます。例えば、ネットへの出品や配送の代理など、従来の企業活動から派生した仕事に発展の可能性を見いだし、変化する時代に対応した会社経営を目指します。



▲ペットボトルを使った花挿し。倒れても水がこぼれないアイデア商品でオフィスでも気軽に花が楽しめる。